

令和4年度 学校評価報告書 ( 目標設定 ・ 実施結果 )

| 視点                  | 4年間の目標<br>(令和2年度策定)  | 1年間の目標  | 取組の内容   |  | 校内評価   |  | 学校関係者評価   | 総合評価(3月8日実施)   |   |
|---------------------|--|---|---|--|--|--|---|--|---|
|                     |  |   | 具体的な方策  | 評価の観点  | 達成状況   | 課題・改善方策等   | (2月24日実施)   | 成果と課題  | 改善方策等   |
| 1<br>教育課程<br>学習指導   | ・自立と社会参加をめざし、各教育部門、各学部において、それぞれが系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。 | ①新学習指導要領の理解を深め、適切に教育課程を編成し、授業改善に向けた校内研究、研修を実施していく。<br>②GIGA スクール構想の実現に向けて、ICT機器の活用や児童生徒に適した教材教具の開発等に積極的に取り組む。 | ①これまでの研究成果を活かした学習指導案の書式を導入し、引き続き、新学習指導要領を踏まえた、年間指導計画の見直し、指導・評価の徹底と授業改善を継続する。<br>②GIGA スクール構想の実現に向けて、ICTを活用した授業づくり、ネットワークを活用した協働的な学びの環境整備、視線入力機器の活用と管理等に取り組む                         | ①児童・生徒一人ひとりのニーズと課題を共有し、教職員の共通理解と組織的な研究、授業実践をし、指導・評価の徹底と授業改善に取り組めたか。<br>②児童・生徒一人ひとりに適したICTを活用した授業づくり、ICT教材を含む教材教具(視線入力機器を含む)の活用と改善を進められたか。                            | ①校内研究や研修、授業研究等で新学習指導要領を基に系統性を意識し、授業改善に取り組んだ。また、教育課程編成等では小中高の学習内容を確認しながら各学部で検討し、作成することができた。<br>②児童生徒に適したICT機器教材を活用することができた。更に校舎間でのリモート交流、児童生徒の実態に応じた視線入力の学習を継続して行うことができた。                     | ①系統性のある授業に取り組む意識はできているが、これからも研究を進めていく必要がある。教育課程編成等を引き続き整理し、改善を進めていく。<br>②ICT機器を有効に活用(視線入力を含め)した授業づくりの推進を図る。iPad等の台数増加など、環境整備の要望をしていく。                              | (保護者アンケート肯定的回答率)<br>※()内は昨年度の% 全体回収率55.3%<br>①小学部から高等部までのつながりを大切にした取組みをしている。72%(76%)<br>②教材教具等、教員間で情報を共有活用して授業実践している。81%(86%)<br>(中・高生徒アンケート)<br>・学校生活や授業の設問では、楽しいが93%(91%)、好きな授業があると85%(85%)が回答<br>(学校運営協議会・学校評価部会)<br>・きめ細やかな資料により、様々な創意工夫のもと、授業改善やICT機器を有効に活用した授業づくり等に取り組んでいる様子がわかった。学校評価にある課題と改善策について、引き続き取り組んでいってほしい。            | ①学習指導要領の理解が深まり、研究授業では、単元の目標を三つの柱で示し、単元を見通した指導計画を立てることができた。一方、教科等を合わせた指導については、目標設定が課題である。<br>②ICTの利用が促進され児童生徒の興味関心を引き出す教材が増えている。実践を重ねることで、効果的な運用方法を探っていく。                   | ①教科等を合わせた指導で授業を行う場合、教育課程編成の複雑さから学習指導要領に基づいて単元の計画を立てることがむずかしい。適切な教育課程編成を更に進めていく。<br>②視線入力を含めたICT機器等の有効活用した授業作りの推進を図る。iPad等の台数増加等、環境整備の要望をしていく。       |
| 2<br>児童・生徒<br>指導・支援 | ・児童・生徒一人ひとりの実態や支援ニーズ、生活年齢に応じた指導・支援を組織的、計画的に取り組む。             | ①児童・生徒一人ひとりの実態や支援ニーズ、生活年齢を十分に踏まえた上で、アセスメントを充実させ、指導・支援に取り組む。<br>②個別教育計画の新書式の完成度を高め、作成、評価、活用の方法等について整理、改善に取り組む。 | ①専門職、教育相談担当等と連携し、柔軟で迅速なより良い指導体制の構築をめざす。そのため、自立活動、医療的ケア等、特別支援教育の専門性の継承と向上に取り組む。<br>②これまでの取組みを活かし、一人ひとりの教育的ニーズに応じた評価等(観点別評価等)について検証し、引き続き改善を進める。また、キャリアパスポート導入による個別教育計画の改善及び活用の充実を図る。 | ①専門職、教育相談担当を含めたチームで情報を共有し、個別教育計画に反映して指導支援に活かすことができたか。専門性の継承と向上に取り組むことができたか。<br>②新書式の個別教育計画の適正な運用と適切な引継ぎに基づくきめ細かな指導・支援ができたか。キャリアパスポート導入による個別教育計画の改善及び活用の充実を図ることができたか。 | ①児童生徒の個別の相談案件や、家庭との連携等について指導部や支援連携部(相談支援チーム等)と情報を共有し、必要に応じてケース会を実施するなどして連携して進めることができた。<br>②個別教育計画の書式について、各総括教諭、学部長と連携し、見直し・改善をした。また、キャリアパスポートは、各学部の実態に合わせて、ワークシートを活用し、個別教育計画と合わせて作成することができた。 | ①引き続き専門職、相談支援チームとの連携を図り、今年度の取り組みをベースに個別教育計画に反映し、より効果的な指導ができるよう取り組んでいく。<br>②個別教育計画については、教育課程編成、年間指導計画等を考慮しながら、改善を進めていく。キャリアパスポートについても、各学部の実態に合わせ、円滑な活用、内容の充実を図っていく。 | (保護者アンケート肯定的回答率)<br>①必要に応じて専門職等と連携して、児童生徒のニーズに応じた支援に取り組んでいる。83%(86%)<br>②個別教育計画はわかりやすい内容となっている。96%(98%)<br>(中・高生徒アンケート)<br>・先生はあなたの話や悩みを聞いてくれたと96%(95%)が回答。<br>(学校運営協議会・学校評価部会)<br>・児童生徒の支援に関することとして、医療的ケアのある児童生徒の通学支援について、スクールバスに看護師が乗車し始めているとのことであるが、学校だけでなく、地域の福祉関係機関等、地域のフォローアップが大切である。学校が他機関との連携に慣れていないこともある。お互いの良さを生かしていく必要がある。 | ①チームで情報共有し、専門職や相談支援チームとケース会等で課題解決に取り組むことができてきている。更に連携をスムーズにするためのより良い体制づくりが必要である。<br>②個別教育計画では、新書式の活用、計画に沿った指導支援を行うことができた。キャリアパスポートについては、各学部の実態に合わせ、円滑な活用、内容の充実を図っていく必要がある。 | ①今後もチームを意識し、問題解決に努めていく。今年度の取り組みをベースに個別教育計画に反映し、より効果的な指導ができるよう取り組んでいく。<br>②個別教育計画を充実させていくとともに、キャリアパスポートの視点を含め、評価と引継ぎを十分に行い、次年度の学習指導、支援に活かしていけるようにする。 |
| 3<br>進路指導・<br>支援    | ・将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた進路指導・支援を行う。   | ①児童・生徒の自立と社会参加を見据え、発達段階など個に応じた一貫性のあるキャリア教育の推進及びシチズンシップ教育の充実を図る。   | ①児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導を推進すると共に、系統的、継続的なきめ細かなキャリア教育と支援を進める。また、高等部におけるシチズンシップ教育の充実を図る。   | ①保護者、進路担当及び専門職等と連携し、個々の特性や発達段階に応じた支援を実施することができたか。また、キャリア教育及びシチズンシップ教育の充実を図ることができたか。  | ①各学部段階で身に着けるべき生活スキルや社会的スキルについて教職員間で共通理解し、キャリア教育の推進を図ることができた。また、高等部において年間指導計画等を見直し、シチズンシップ教育の観点等を明記することができた。  | ①今後も進路についての研修を行い、保護者や関係機関と連携し、発達段階に応じた支援を行っていく。また、成人年齢の引き下げに伴い、選挙年齢も18歳になった。より効果的なシチズンシップ教育を推進していく。  | (保護者アンケート肯定的回答率)<br>①生活や社会的スキルの獲得に向け、人や施設・場面を効果的に活用した校外学習や日常の授業に取組んでいる。81%(77%)<br>②保護者対象の進路先の見学会や福祉制度説明会等は参考になっている。74%(67%)<br>(中・高生徒アンケート)<br>職業、作業や進路の授業は役に立つ97%(93%)、授業で卒業後の進路先や生活がわかると88%(84%)が回答。   | ①各関係機関との連携を密にし、情報共有を積極的に行い、生徒、保護者の話を丁寧に聞き取り、キャリア教育の推進を図った。また、教材を工夫し、シチズンシップ教育に取り組んだ。反省を基に見直しをしていく。   | ①各関係機関との連携の中でいただいた課題等を学校全体で共有し、課題解決に向けた取組みを推進していく。また、生徒の実態に合った、より効果的なシチズンシップ教育を推進していく。  |

|   | 視点           | 4年間の目標<br>(令和2年度策定)  | 1年間の目標  | 取組の内容  |  | 校内評価   |  | 学校関係者評価   | 総合評価（3月8日実施）  |   |
|---|--------------|--|---|--|--|--|--|---|---|---|
|   |              |  |   | 具体的な方策   | 評価の観点  | 達成状況   | 課題・改善方策等   | （2月24日実施）   | 成果と課題   | 改善方策等   |
|   |              |  | ②保護者に対する的確な進路情報や福祉制度を提供、周知しそのニーズに応えるとともに理解啓発を図る。  | ②感染症予防対策の取組みを基に、工夫した説明会等を丁寧に行うとともに、進路及び福祉に関する各種情報を保護者及び教職員に対してもわかりやすく提供し、理解啓発を図る。  | ②進路説明会等において、様々な工夫を行い実施することができたか。また、教職員に対しても研修等の機会を提供していくことができたか。   | ②各学部では、卒業後の進路や児童生徒像について、保護者に意識してもらえるように面談等を行った。進路関係の各説明会では、感染症対策をしながら、資料作成や配付の工夫、DVDの貸し出し等、わかりやすい説明会を実施した。   | ②児童生徒の将来を意識した指導・支援を計画しながら、今後も継続して取り組み進路関係各職員と連携しながら取り組んでいく。説明会では会場の工夫、リモートの対応等、更に工夫して取り組んでいく。  | (学校運営協議会・学校評価部会)<br>・教育の成果は、卒業後数年たってからわかる。大学では卒業後3年間の離職率が高い。卒業後のマッチングができていくのかということについて、大学では取り組み始めている。マッチングについてのアドバイスキルについて高めていきたいと考えている。小田原養護学校においても、取り組んでいってほしい。取り組みの手始めとして、各進路先へのアンケートを取ってみたいかどうかと考えている。  | ②感染症予防をしながら、面談、説明会等を実施し、進路及び福祉に関する各種情報を保護者に対してわかりやすく提供し、支援及び理解啓発を図ることができた。出席できなかった方々への対応を工夫していく。  | ②今後も継続して取り組み、進路担当、支援連携部、各専門職、各関係機関と協力しながら情報発信や支援を行う。説明会では会場の工夫、リモートの対応等、更に工夫して取り組んでいく。  |
| 4 | 地域等との協働      | ・他者理解と多様性を認め合う共生社会の実現に向け、障害のある児童・生徒の理解啓発を図るため、地域への発信や、地域と連携した教育活動を充実させる。                                     | ①地域と連携した教育活動の推進（切れ目のない支援の充実）とコミュニティ・スクールの推進について、校内外及び保護者の理解推進を図る。<br>②三つの学びの場が一体となり、地域の中での豊かな学びと、地域に根指した安心できる生活の実現に向けて取り組む。     | ①地域と連携した教育活動の推進（切れ目のない支援の充実）とコミュニティ・スクールの実施し、地域の学校や関係諸機関、保護者と連携を図り、センタ一的機能の充実を図る。<br>②小田原校舎、湯河原校舎、大井分教室の三つの学びの場が一体となるとともに、それぞれの地域において担当者が中心となり、校内の諸課題の整理をし、地域や関係諸機関等と連携を図りながら、丁寧に推進する。 | ①地域と連携した教育活動の推進（切れ目のない支援の充実）とコミュニティ・スクールの推進について、校内外及び保護者の理解推進を図ることができたか。<br>②三つの学びの場が一体となるとともに、それぞれの地域において校内の諸課題の整理をし、地域や関係諸機関等と連携を図り、一つひとつ丁寧に推進することができたか。 | ①感染症対策をしながら、一部の学校間交流や居住地交流を実施することができた。またリモートでの交流も実施できた。2年ぶりの外部作品展示会、ボランティア講座等の情報発信等にも取り組むことができた。<br>②行事等で小田原校舎と湯河原校舎の児童生徒の交流が実施できた。大井分教室では3年ぶりの大井高祭に参加し、音楽発表等を行った。地域との連携も湯河原校舎を中心に実施することができた。                            | ①感染症対策をしながら、実施可能な学校間交流を模索する。また、状況に応じた方法で居住地交流を継続して行く。地域との連携について、実施可能な様々な方法を検討していく。<br>②三つの学びの場が一体となるような交流を模索し、推進していく。これまでの地域とのつながりを大切にしつつ、資源を活用し、関係諸機関との連携を深めていく。  | (保護者アンケート肯定的回答率)<br>①学校は、地域の「支援教育」の充実・推進のために、役割を果たしている。64%(54%)。地域との交流学習は計画的に行われている54%(51%)。<br>②地域に向けた研修会や活動は、児童・生徒の理解啓発につながっている。53%(48%)。学校の教育活動を、ホームページや連携部だより等で保護者や地域の方にわかりやすく伝えている。76%(77%)。<br>(学校運営協議会・学校評価部会)<br>・小田原養護学校は、今後も県西地域の中核機関として、学校での取り組みや支援方法等を地域に汎化させてほしい。<br>・基幹相談支援センターで各種関係機関と重層的なテーマ（医療的ケア、引きこもり、ヤングケアラー等）を設定して協議している。今後、インクルーシブ教育や切れ目のない支援等のテーマで、多職種と連携し、ディスカッションする機会があるとよい。   | ①感染症対策を行った上で実施方法を工夫し、学校間交流、居住地交流(リモート交流を実施)等を実施することができた。様々な情報発信に取り組むこともできた。更に理解推進に向けて取り組む。<br>②小田原校舎、湯河原校舎、大井分教室、それぞれにおいて、学びの場を共有する取組が行われ、地域との連携についても実施できることが増えた。継続して取り組んでいく。                       | ①地域と連携した教育活動を推進するとともに、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)と連携し、様々な課題に対して、理解推進を図りながら、丁寧に取り組んでいく。<br>②三つの学びの場が一体となるような交流を模索し、推進していく。地域や関係諸機関等と連携を図りながら、地域に根ざした取り組みの充実を図っていく。                          |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | ・児童・生徒の安全と健康を守り、防災教育等に取り組み、良好な教育環境の整備を推進する。<br>・不祥事防止の徹底と当事者意識を持ち、良質の同僚性を構築し、教師力アップを目指す。また、教職員の働き方改革の実現をめざす。 | ①児童・生徒の安全と健康、良好な教育環境の整備、防災教育等に組織的、継続的に取り組む。<br>②事故・不祥事防止に努め、教職員一人ひとりが当事者意識を持ち、良質の同僚性を構築し、教職員の人格的資質・専門性の向上を図るとともに教職員の働き方改革を推進する。 | ①感染症予防対策を継続して取り組み、ガイドラインを基に、マニュアルを必要に応じて、柔軟に更新していく。また、校内防災の充実と地域防災の連携に向け、引き続き迅速に、組織的、継続的に取り組んでいく。<br>②事故・不祥事防止に向けた啓発活動を継続し、報告連絡相談に対する意識を高める。また、働き方改革について、事務処理の効率化等に向けた取組みを実施する。        | ①感染症予防対策を保護者等の協力を得ながら、学校全体で実施することができたか。防災対策について、引き続き迅速に、組織的、継続的に取り組むことができたか。<br>②事故・不祥事ゼロが達成できたか。また、児童・生徒と向き合う時間を増やすなど教職員一人ひとりが意識しながら働き方改革に取り組むことができたか。    | ①感染症対策については通知等を基に、マニュアル等を柔軟に更新することができ、検温、消毒等の対策に継続して取り組むことができた。防災対策については、定期的に教室等の環境整備に努め、年二回の避難訓練等を実施し、防災意識を高めることができた。<br>②事故不祥事防止では職員一人ひとりが意識してチームとして取り組むことができた。また、会議資料や事務連絡等、Teamsのチャット機能を使うことが定着し、働き方改革につながる環境となってきた。 | ①感染症対策は、今後変更されることが考えられる。マニュアル等の変更が柔軟に対応できるようにしつつ、児童生徒にとって安心安全な環境整備に努めている。防災対策についても、引き続き、安心安全な避難等ができるように対応していく。<br>②引き続き事故不祥事防止ゼロを念頭に置き、チームとして一人ひとりが意識して取り組んでいく。また、今後もTeamsを活用しつつ、会議等を見直し、効率的に開催できるように工夫していく。 | (保護者アンケート肯定的回答率)<br>①保健室や栄養職員等と情報交換を密に行い、感染症やアレルギー等の未然防止に取り組んでいる。89%(94%)。学校は、防災教育に取り組んでいる。85%(93%)。<br>②会計報告や個人情報の収集時に適切に行っている。93%(90%)。職員は、児童・生徒や保護者に対して、コミュニケーションを大切にされた態度で接している。92%(95%)。<br>(学校運営協議会・学校評価部会)<br>・小田原市では、今年度、新たに洪水と土砂災害のハザードマップが統合された新しい災害ハザードマップが出される。参考にするとともに、地域との連携を深め、車いす対応の避難所等、地域の各避難所の機能を活かせるようにするとよい。<br>・私費会計でのネットバンキングの利用、Teamsでのリモート会議、チャット機能での情報共有、出席簿のネットワーク化等が定着しつつあり、働き方改革につながる環境となってきたことである。今後も、働き方改革につながる工夫、取り組みを推進してほしい。 | ①児童生徒にとって安心安全な環境整備及び健康を守るために情報共有を丁寧に行い、教育活動に取り組むことができた。感染症予防対策、避難訓練等については、継続して取り組んでいく必要がある。<br>②職員一人ひとりが意識し、チームとして(時には学部学年・グループを超えて)事故不祥事防止に取り組むことができた。また、Teamsのチャット機能等を使い働き方改革にも取り組んだ。更なる意識の向上が課題。 | ①引き続き、児童生徒の健康と安全を第一に考えながら、保護者等及び地域と連携し、協力を得ながら、組織的、継続的に取り組んでいく。また、マニュアル等は柔軟に更新していく。<br>②担当者だけでなく、職員一人ひとりが意識し、理解できるように、研修等の充実を図る。また、Teamsの活用について、更に検討し、効率的な会議の開催等を行うことで働き方改革につなげていく。 |